

大会改革に向けて

大会担当理事 平野哲文
大会担当理事 大槻東巳
副会長 勝本信吾

年次大会、秋季(春季)大会を定期的に開催し、会員の皆様の学術成果の発表と討論の場を設けることは、日本物理学会の事業の根幹をなすものです。その大切な大会が、現在危機に瀕しています。特に大きな問題は次の3つにまとめられます。

- (a) 講演数・参加者数の減少、
- (b) 大会事業の赤字経営、
- (c) 開催可能会場(大学)の減少。

大会をより円滑に開催し、実りあるものにするために、日本物理学会理事会ではここ数年、以上を含む大会関係諸問題の解決に取り組んできました。しかし、特に(c)の問題が焦眉の急となり、これから1年程度をかけ、大きな大会改革に踏み切ることになりました。具体的には、

1. 第75回年次大会(2020年)より冊子体プログラムの廃止、
2. 第76回年次大会(2021年)より大会会場の有効活用

を行う次第となりました。本稿の目的は、これらの改革についてご報告・ご説明することです。会員の皆様方におかれましてはご理解、ご協力をお願い申し上げます。

1. (a)に挙げましたように、大会の講演数、及び、参加者数はここ10年で会員数の減少傾向を超えて漸減傾向にあります。この原因の一つとして、大会の講演申し込みを大会時期の約3か月間前に行わなければならない問題が挙げられます。このようなスケジュールを組まざるを得ない理由の一つが、プログラム冊子の製作にあります。印刷、製本し、年次大会では3月号、秋季大会では8月号の学会誌に同封するために、そこから遡ってプログラム編集会議、原稿の校正などをスケジュールした結果、このような申し込み締め切り日が設定されています。そこで、昨今のタブレットやスマートフォンの普及、コスト削減や紙媒体廃止の潮流を考え、第75回年次大会(2020年)よりプログラム冊子体を廃止することとなりました。今後は、これまで通り検索機能付きのweb版プログラムを提供することに加え、冊子体とほぼ同フォーマットのpdf版を会員マイページよりご覧いただく形になります。大会参加の前に予めダウンロードしていただくとともに、紙媒体が必要な場合は必要箇所を印刷して大会にご持参ください。この変更により、講演申し込みの締め切りを約2週間遅らせることを予定しています。今後はより効率的なプログラム編集作業を行うことで、講演申し込みの締め切りを更に遅らせることも検討してまいります。

2. (b)の大会事業の赤字につきましては、本誌記事でもたびたび取り上げてきました。^{1,2)} その大きな要因の一つが会場費の高騰です。また、これまでそれほど会員に広く知られていませんでしたが実は大変深刻な問題として、(c)の要因による、会場探しの難航があります。学生数の減少に合わせ、大学の教室のサイズ、数は減少傾向にあり、多くの大学で沢山の教室を一度に使用する大会が開催困難になりつつあります。このことは、本誌の実行委員長による大会報告でも取り上げられています。^{3,4)} その一方で、プログラム冊子前付けの会場名別日程表をご覧になれば、会場の稼働率がそれほど高くはないとお分かりいただけるかと思います。

そこで、第76回年次大会(2021年)より、会場の稼働率を上げることで、使用する部屋数を約3/4に減らすこととします。大きな変更点の一つは、通常、年次大会3日目の午前中に組まれている論文賞表彰式、総合講演をパラレルセッションの一つと位置付け、その間、通常セッションも行うことです。総合講演は長年にわたりプレナリーセッションとして千人規模の会場を使用して開催してきましたが、近年は会場が埋まることはごく稀になりました。しかし、多くの会員が興味を持ち得る話題についての第一線で活躍中の講師による講演は、学会の貴重な財産であり、むしろ大会に参加できなかった会員も含め、全会員で共有すべきものです。そこで、総合講演についてはプロによる(予算の許す範囲で)高画質・高音質の動画を撮り、会員マイページで配信を行うことを予定しています。

また、更に稼働率を上げるべく、午前や午後のセッションの前半、後半に異なる領域のセッションが入る、初日午前や最終日午後セッションが多く入るといったプログラム編成を行います。ポスターセッションも1日当たり3コマを割り当てます。部屋数が減ることはコスト削減だけでなく、現地実行委員会の大学との交渉や会場の管理の負担、及び、事務局による会場選定の負担の軽減につながると期待されます。実際この改革を前提に会場交渉を進めたところ、これまで会場選定が難航し開催そのものが危ぶまれていた第76回年次大会(2021年)を始め、いくつかの会場で開催をお引き受けいただける可能性が出てきています。

日本物理学会の中心的事業の一つである大会の現状をご理解いただき、会員の皆様には今回の変更にも、ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。ご意見をたまわりながら、引き続き、大会の改善に向け努力してまいります。

参考文献

- 1) 太田 仁, 勝本信吾, 日本物理学会誌 **73**, 286 (2018).
- 2) 太田 仁, 日本物理学会誌 **73**, 829 (2018).
- 3) 須藤彰三, 日本物理学会誌 **71**, 552 (2016).
- 4) 半澤克郎, 日本物理学会誌 **73**, 664 (2018).